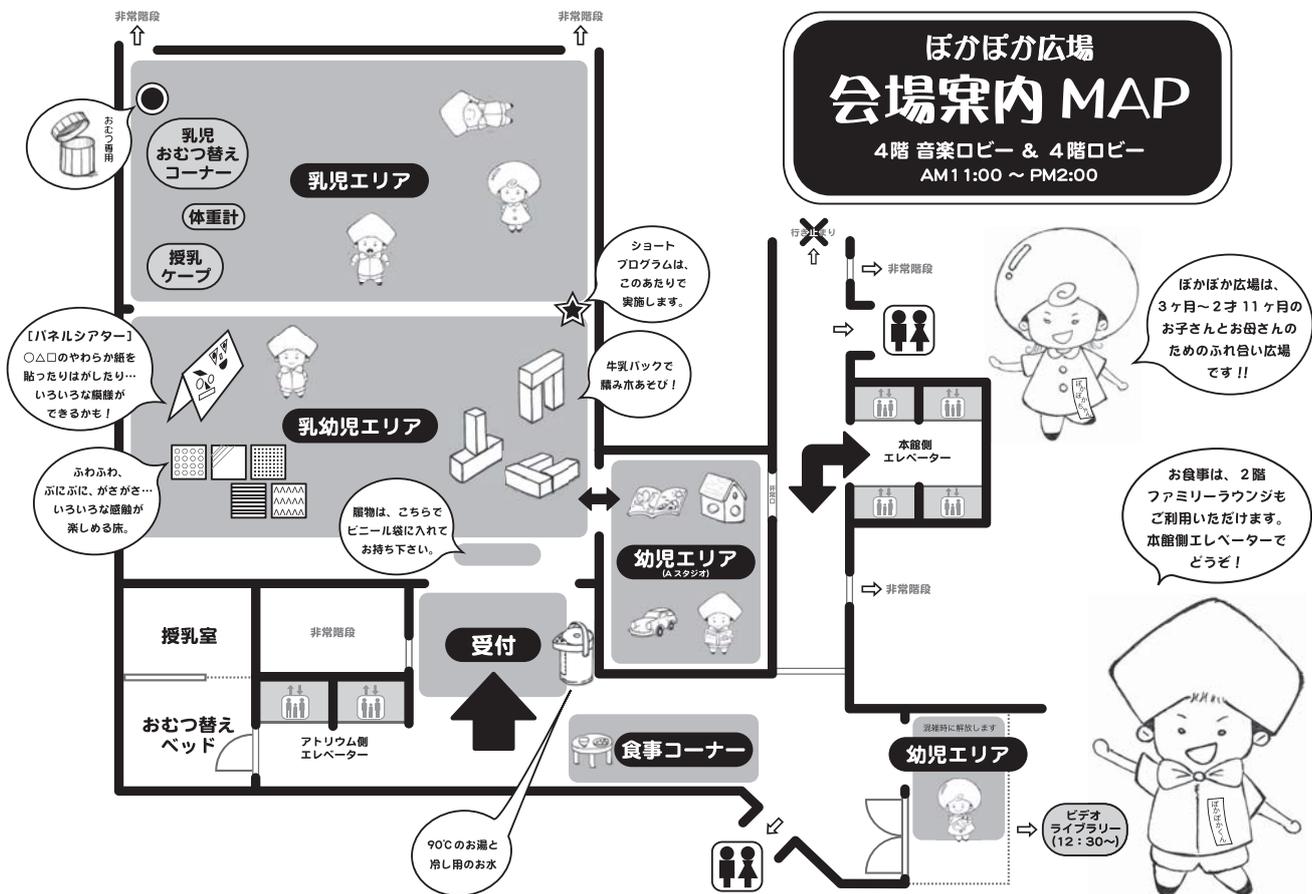


「こどもの城」の 〈子育てひろば〉

3か月から2歳11か月児を対象に 「ぽかぽか広場」で子育て支援

〔こどもの城〕では、隔週火曜日の11時～14時に、3か月から2歳11か月の乳幼児とその保護者を対象に、子育て支援のプログラム「ぽかぽか広場」を開催しています。ふだんは、音楽遊びなどの活動を展開している音楽ロビーほかを模様替えして、3か月から2歳11か月までの乳幼児とその保護者のための“広場”にしています。



● 「ぽかぽか広場」の会場について

ふだんは、音楽遊びを行っている「音楽ロビー」を中心に、Aスタジオ（板張りの音楽スタジオ）、4階ロビー、ビデオライブラリーの一部を使用しています。火曜日の〔こどもの城〕の一般スペースの開館時間は、12時30分ですが、「ぽかぽか広場」は開館時間を繰り上げて、11時から利用できるようにしています。

そのため、11時の開場にあわせて準備を進め、14時の終了時間と同時に片付けをはじめ、14時30分からは通常の音楽遊びのプログラムができるようにしています。常設の会場がないため、毎回、準備・片付けが必要になりますが、そのことが逆に、“手際よく作業をすすめる工夫”へとつながっています。

赤ちゃんに、いろいろな感触を体験してもらおうと設置している“いろいろな感触の床”も、サイズを45cm四方に統一して、周辺部をガムテープで養生するなど、つなぎあわせて使えるように工夫。準備と片付けが、スムーズにできるようにしています。

■ 「ぽかぽか広場」会場の準備■

・室内環境作り＝音楽ロビーの模様替え（カーペット敷きの床面の上に、シートやこたつ敷きを敷き、靴をぬいであつろげるようにします。ぬいだ靴を入れる靴袋（レジ袋を利用。靴の取り間違いがないようにするため）、スリッパ（トイレなど、短時間の使用のため）の用意をします。



「ぽかぽか広場」向けに模様替えした音楽ロビー

- ・ **食事場所の用意** = 4階ロビーの一角をソファで仕切り、靴をぬいで座れるようにマットとシートを敷き、座卓を並べます。
- ・ **計測コーナー／おむつ替えコーナー／お湯コーナー／情報コーナーなどの準備**
- ・ **安全面への配慮** = コンセント、消火器、机などは、衝立などでカバーし、乳幼児が立ち入れないようにします。



■「ぼかぼか広場」会場の設定■

- ・ **会場の配置** = 会場の音楽ロビーは、おもちゃの対応月齢を考慮して、奥のほうから3か月児向けのおもちゃを置くなど、大まかに月齢別に分けて配置しています。しかし、それほど厳密な区分けではなく、好きな場所で遊んでもらっています。移動も自由で、いちばん大きな子ども向けおもちゃは、床ばりのAスタジオに置いています。

寝ていて自分では動き回らない子どもと、走り回る子どもが同じフロアで活動するため、危険を感じる人もいます。そこで、お母さんたちの座り方などに配慮をします。

例えば、赤ちゃんをこたつ敷きの上に集めて、赤ちゃんを囲むように、お母さんたちに座ってもらいます。互いの顔が見えると同時に、みんなの子どもの様子を見ることがもできます。さらに、走り回る子どもたちも入ってこないようになり、話がはずむ場所になります。

後から来た同じような月齢の親子を見逃さず、スタッフが声をかけて輪に加わるようにすれば、閉鎖的になりにくくなります。ボランティアや、慣れてきたお母さんにその役をお願いすることも可能です。

- ・ **受け付け** = 入館券の確認、「ぼかぼか広場」の説明と案内、名前シールなどの記入をお願いしています。言葉かけの参考にするため、初回利用者と2回目以降の利用者の別が分かるように、子どもの体にはる名前シールを色分けしています。

受け付けでは、以下のことを記入してもらいます。

初めての参加者には、子どもの月齢、「ぼかぼか広場」を知ったきっかけ、住んでいる場所（市、区の範囲）を所定の用紙に記入してもらいます。子どもの月齢と名前をタックシール（赤）へ記入し、子どもにはってもらいます。

2回目以降の参加者には、参加回数、子どもの月齢、住んでいる場所を用紙に記入してもらい、子どもの月齢と名前を記入したタックシール（青）を子どもにはってもらいます。

■スタッフの配置■

「ぼかぼか広場」は、「こどもの城」の職員だけでなく、多くの女性ボランティアの協力を得ています。母親の話し

相手、赤ちゃんの遊び相手として、参加者同士のかかわりを広げるのが、基本的な役割です。

〔こどもの城〕の職員は、それぞれが持っている専門性を生かしてかかわる場面もあれば、一人の“大人”として子どもと遊んだり、お母さんたちと話をしたりする場面があります。「ぼかぼか広場」運営の、実務的なものは職員が担当し、ボランティアには全体の雰囲気作りを主に担当してもらっています。

■スタッフのノウハウを生かした対応■

①職員の専門性と乳幼児親子への対応

「ぼかぼか広場」を今の形にするまでには、乳児向けのプログラムを実践している部門のノウハウや、担当者自身の経験をみんなで共有しながら試行錯誤してきました。スタッフの年齢や経験によっても、親とのかかわり方が難しいのではないかという意見もありましたが、経験を重ねることによって、すこしずつ解消してきています。

②ショートプログラム（別紙「親子あそびの簡単レシピ」参照）

開館以来プログラムを作り提供し続けている〔こどもの城〕の特徴を生かしながら、〈ひろば〉プログラムの流れへの影響を少なくした、自由に参加できる短時間の遊びのプログラム“ショートプログラム”を提供しています。

③「赤ちゃんサロン」のノウハウ

〔こどもの城〕では、小児保健のメディカルスタッフが、お母さんたちの話の輪に加わって過ごす〈ひろば〉と、講習会などの〈プログラム〉の中間のような、子育て支援プログラムを従来から実施しています。そこでのさまざまなノウハウが「ぼかぼか広場」で、掲示物やシート類、おむつ替えコーナー・計測コーナー・お湯コーナーなどの設置、おもちゃの種類、食事の場所などのアイデアとなって生かされています。

■「ぼかぼか広場」の後片付け■

「ぼかぼか広場」では、参加した親子にもおもちゃの片付けを手伝ってもらっています。散らばっているおもちゃを集めて、所定の箱に入れてもらいます。床面に敷いたシートやこたつ敷きなどの撤収は、スタッフが行います。

30分後には、音楽ロビーの活動ができるように、みんなで協力して後片付けをします。

活動の振り返りやおもちゃの消毒は、場所を移して行います。おもちゃは片付けるときに、衛生面を配慮し、毎回、アルコールなどで消毒しますが、おもちゃの表面をしっかりと拭き取ることが大切です。

■「ぼかぼか広場」参加者の月齢■

